



 GS 連続シンポジウム 2008

まちづくりへのブレイクスルー 水辺を市民の手に取り戻す

第4回「森をつないで、都市河川を地元の川に - 横浜・和泉川」
5月30日(金) 15:00-18:20 / 東京大学工学部 11号館講堂

入場料：一般 / 1000円 学生 / 無料

<http://www.groundscape.jp/>

主催 / GS デザイン会議 後援 / 土木学会 景観・デザイン委員会

サポート / (株)アトリエ74 建築都市計画研究所、(株)アール・アイ・エー、(有) eau、伊藤鉄工(株)、(株) INAX、(株)オオバ、(有)小野寺康都市設計事務所、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術センター
(株)コトブキ、(株)GK 設計、清水建設(株)、(株)住軽日軽エンジニアリング、大成建設(株)、(株)竹中工務店、(株)長大、東京コンサルタンツ(株)、戸田建設(株)、(株)内藤廣建築設計事務所、(株)日建設計シビル
日本工営(株)、日本電気硝子(株)、プロトフォーム、(株)文化財保存計画協会、前田建設工業(株)、三井不動産(株)、ヨシモトホール(株)、(株)ワークヴィジョンズ

まちづくりへの ブレイクスルー

GS 連続シンポジウム 2008



水辺を市民の 手に取り戻す

GS デザイン会議では、まちづくりや空間デザインにおける、分野を超えた専門家間のデザイン体制（コラボレーション）の重要性を指摘し、その実践に取り組んできました。そして現在、全国各地でその成果が着実にたちあられつつあります。とくに、都市やまちのなかで重要な位置を占める水辺に注目し、水辺の整備から『まち』への面的な波及効果を持たせる手法は、津和野川（鳥根県津和野市）や油津・堀川運河（宮崎県日南市）などで大きな成果を挙げており、まちづくりの定石のひとつになると考えられます。

しかし、空間整備を進めるにあたっては、必ずといってよいほど、さまざまな制度や限られた予算、旧態然としたしがらみなどの制約が存在

しています。これまでに実現した良い事例は、いわばそれらと悪戦苦闘してきた証であり、そこには今後に通じる知恵が数多くあるはずで。こうした知恵の共有化はまちづくりに携わる人間にとって重要な課題であり、GS デザイン会議は、各地で孤軍奮闘している行政担当者や実務設計者、市民への情報を発信するべく連続シンポジウムを開催します。

シンポジウムでは、現実の壁を乗り越えたデザイン事例の過程に焦点を当てます。まちづくりの現場の問題に対する本音の話を引き出し、どのような人がどのような役割を果たし、最終的にどのような空間に結実したのかを手がかりにし、今後のデザイン戦略を議論します。第 4 回は横浜市の和泉川の試みから、まちづくりと河川のあり方を問います。

第 4 回 「森をつないで、都市河川を地元の川に - 横浜・和泉川」



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 1: 東山の水辺
写真 2: 中橋から関ヶ原の水辺
写真 3: 東山ふれあい樹林の林道から
東山の水辺
写真 4: 整備前の和泉川（東山の水辺）

和泉川は神奈川県横浜市を流れる延長約 10km の市街地を流れる都市河川である。この和泉川は、平成 3 年に国の「ふるさとの川モデル事業」の指定を受け、平成 17 年度までに 5 つの水辺拠点が整備された。とくに、シンポジウムで注目する「東山の水辺」と「関ヶ原の水辺」は、土木学会デザイン賞 2005 の最優秀賞を受賞している。

互いに隣接する「東山の水辺」と「関ヶ原の水辺」は、左岸側に斜面林が、右岸側には住宅や工場、農家が斜面に並ぶという、谷戸の地形構造をよく残すところにある。しかし、その谷を流れる整備前の和泉川は、鋼製矢板護岸で固められた「どぶ川」であった（写真 4）。このような状況に対し、昭和 63 年頃から吉村氏（当時：横浜市下水道局河川計画課）は、「よこはまかわを考える会」（注）で知己を得た橋本氏（農林・都市計画研究所）に声をかけ、和泉川の再生計画に取り組んでいく。それらは、昭和 63 年の和泉川環境整備計画、平成 2 年の和泉川水辺空間整備計画に始まり、基本設計、実施設計、施工管理と足掛け

10 年を経て、平成 9 年に現在の和泉川として結実した。

この非常に息の長い計画・設計において、終始一貫しているのは、空間の面でも人々の活動の面でも、地域と一体となる川のありかたが追求されていることである。その方針にそって、河道位置の変更や公園事業による計画高水位以上の用地確保、緑地事業による斜面林の確保、河川管理用通路の一部廃止や潜り橋の設置、そして吉村氏と橋本氏の一貫した関与など、竣工後 10 年を経過した今でも簡単には実現できない取り組みがおこなわれている。

そうしてできた和泉川は、鳥の鳴き声が聞こえる森を背景に、自宅から歩いてすぐに行くことのできる子供たちの格好の遊び場になっている。当日は、その風景を生むための数知れない苦労の過程に光をあてていく。

（注）吉村氏らが中心となって、1982 年から始めた水辺の再生を志向する市民グループであり、現在は NPO として活動している。発足時の会員 27 名のうち 3 分の 1 が市役所や区役所の職員であり、この会で生まれた役所内の横のつながりが、和泉川の整備事業を円滑に進める上で役立っている。

プログラム

- 司会進行 中井 祐 (GS 幹事長 / 東京大学大学院)
- 15:00 - 15:15 開会挨拶 篠原 修 (GS 代表 / 政策研究大学院大学)
- 15:15 - 15:45 基調講演 吉村 伸一 (吉村伸一流域計画室)
- 15:45 - 16:15 基調講演 橋本 忠美 (農林・都市計画研究所)
- 16:30 - 18:00 パネルディスカッション + 会場質問
進行役: 篠原 修 (前出)
パネリスト: 吉村 伸一 (前出)
橋本 忠美 (前出)
六浦 勉 (横浜市緑の協会)
桑子 敏雄 (東京工業大学大学院)
- 18:00 - 18:15 閉会挨拶 内藤 廣 (GS 代表 / 東京大学大学院)
- 18:15 - 18:20 次回シンポジウム告知
- 18:30 - 20:00 懇親会

登壇者略歴

吉村 伸一
(株)吉村伸一流域計画室 代表取締役
1948 年生まれ。室蘭工業大学土木工学科卒業。横浜市役所を経て、1998 年に吉村伸一流域計画室を設立、現在に至る。技術士。主なプロジェクトに、和泉川東山の水辺・関ヶ原の水辺（土木学会デザイン賞 2005 最優秀賞）、和泉川親水広場、和泉川地蔵原の水辺、いたち川低水路整備（自然復元）、いたち川稲荷森の水辺、石井樋地区歴史的な水辺整備事業など。

橋本 忠美
(株)農林・都市計画研究所 代表取締役
1947 年生まれ。千葉工業大学建築学科卒業。東京工業大学研究生を経て 1984 年農林・都市計画研究所設立に参加、1995 年より現職。一級建築士、技術士、日本大学生物環境工学科非常勤講師。横浜市の和泉川での設計作品に、赤間おとなり橋、曙橋、和泉橋、中橋、東山ふれあい橋、やすらぎ橋、地蔵原の水辺、宮沢遊水地、東山の水辺・関ヶ原の水辺（土木学会デザイン賞最優秀賞）など。

六浦 勉
(財)横浜市緑の協会
1946 年生まれ。1969 年東京農業大学農学部農学科卒業後、横浜市入庁。2007 年より現職。主な業務に農業技術指導（病害虫）、横浜市子ども植物園開園及び運営、1980 年代には横浜市緑政局緑政課で横浜自然観察の森の開設計画（現：緑のマスタープラン）の作成とともに緑地の指定・買取等保全業務に従事。自然観察指導員、みどりの学校講師、緑文化士。

桑子 敏雄
東京工業大学大学院 教授
1951 年生まれ。1975 年東京大学文学部哲学科卒業。1980 年東京大学大学院人文科学研究科哲学専修課程博士課程修了後、東京大学文学部助手、南山大学文学部助教授、東京工業大学工学部助教授を経て、1996 年 4 月より現職。大橋川周辺まちづくり検討委員会委員、農林水産省関東農政局住民参加型維持管理のあり方検討委員会委員長など、行政関係・市民団体対象の講演多数。

篠原 修
政策研究大学院大学 教授
1945 年生まれ。1971 年東京大学工学部系大学院修士課程修了。アーバンインダストリー、東京大学農学部林学科助手、建設省土木研究所、東京大学農学部林学科助教授、東京大学工学部土木工学科助教授、同大学教授を経て、2006 年より現職。設計指導に、勝山橋（福井県）、油津堀川運河（宮崎県）、桑名住吉入江（三重県）、津和野川（鳥根県）、苦田ダム（岡山県）など多数。

参加申込方法 / WEB サイト <http://www.groundscape.jp/sympo/080530/> の応募フォームからお申込みいただくか、会員（個人・サポート・コース）／非会員・氏名（ふりがな）・所属（会社名または学校名）・連絡先（メールアドレスまたは電話番号）・シンポジウム参加申込み人数・懇親会参加申込み人数をご記入の上、ファックスにて GS デザイン会議事務局までお送りください。尚、定員になり次第締め切らせていただきます。

問い合わせ先 / GS デザイン会議事務局
電話: 03-5805-5578 / FAX: 03-5805-5579
Web: <http://www.groundscape.jp> E-mail: info@groundscape.jp

